

体罰に関する意識調査結果（各質問のカテゴリー別集計、自由記載集計）

1 目的

令和2年4月に改正児童福祉法等の施行により体罰禁止が法定化されたことを受け、神奈川県児童相談所において体罰未然防止に係る様々な事業を行った。

事業実施による普及啓発効果を検証するため、インターネットによる意識調査を実施した。

2 対象

神奈川県民（インターネットにアクセスし、回答した人）

3 方法

神奈川県中央児童相談所のホームページにアクセスし、性別、年齢及び以下5つの質問に回答* *個人のパソコン、タブレット、スマートフォンで回答

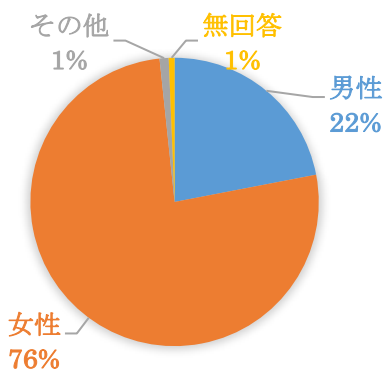
- 質問1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。
- 質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。
- 質問3 体罰が子どもに与えると考えられる影響を知っていますか。
- 質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。
- 質問5 子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

4 集計結果

回答者数：1,379人

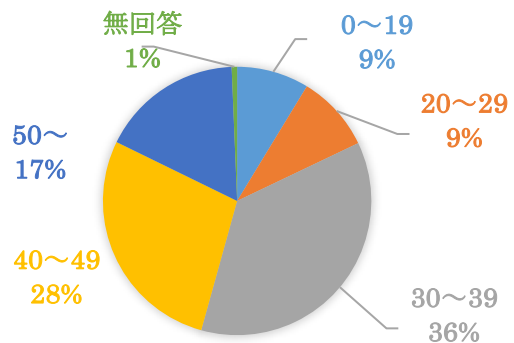
■性別

	人数	割合
男性	303	22.0%
女性	1,053	76.4%
その他	14	1.0%
無回答	9	0.6%
総計	1,379	



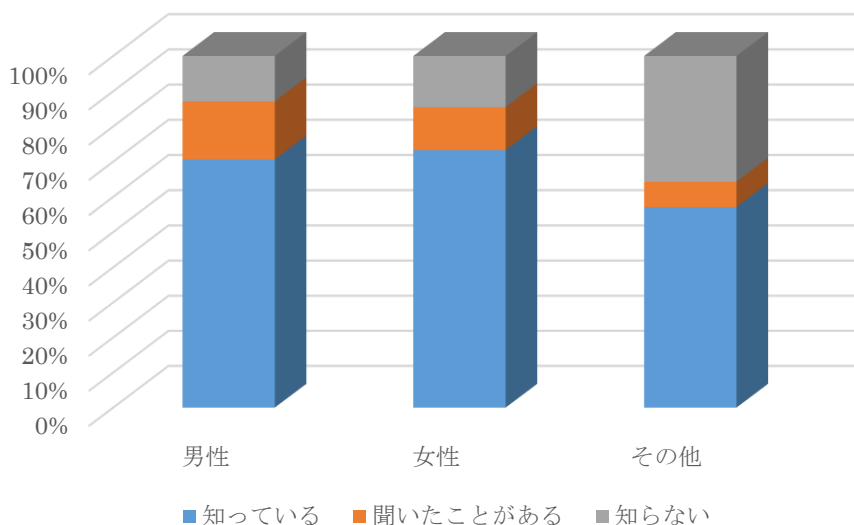
■年齢別

	人数	割合
0～19	120	8.8%
20～29	127	9.2%
30～39	502	36.4%
40～49	385	27.9%
50～	236	17.1%
無回答	9	0.6%
総計	1,379	



質問 1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。

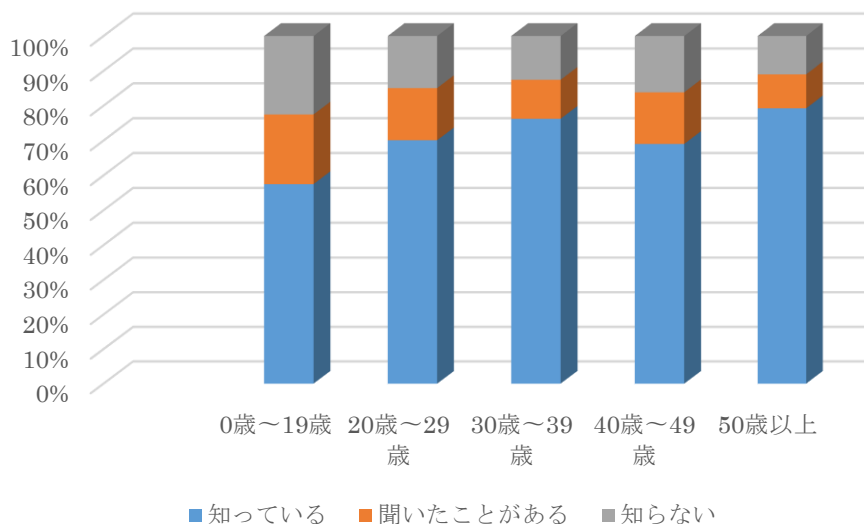
【性別】



いずれの性別も「知っている」の割合が最も高かった。

性別別による割合は、女性、その他より男性の方が知っている（聞いたことがあるも含む）割合が高い。

【年齢】

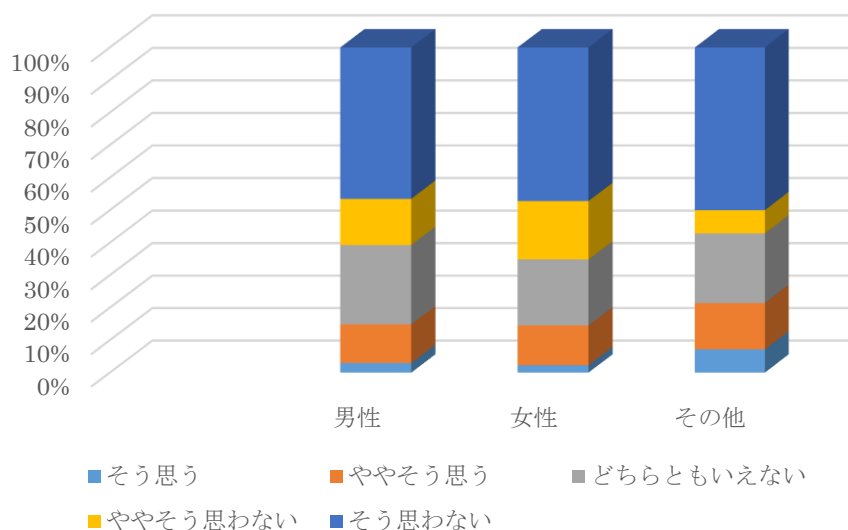


いずれの年齢も「知っている」割合が最も高かった。

年齢別による割合は、「知らない」の割合が最も高かったのは0～19歳で、「知っている」の割合が最も高かったのは50歳以上であった。

質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。

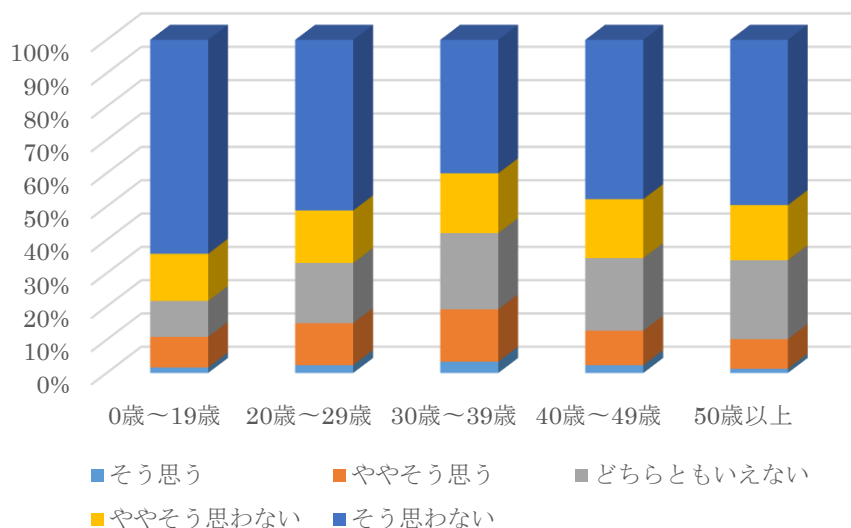
【性別】



いずれの性別も「そう思わない」割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が高かった。

性別別では、男性では「ややそう思わない」「ややそう思う」の割合は同じくらい、女性では「ややそう思わない」が、「その他」では、「ややそう思う」の割合が共に3番目に高かった。

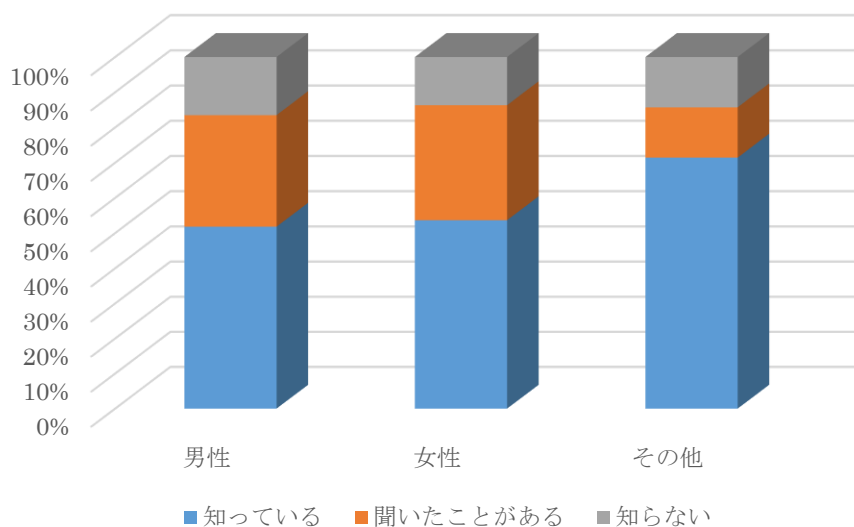
【年齢別】



いずれの年齢においても、「そう思わない」の割合が最も高く、0歳～19歳を除く他の年齢では、「どちらともいえない」の割合が2番目に高かった。

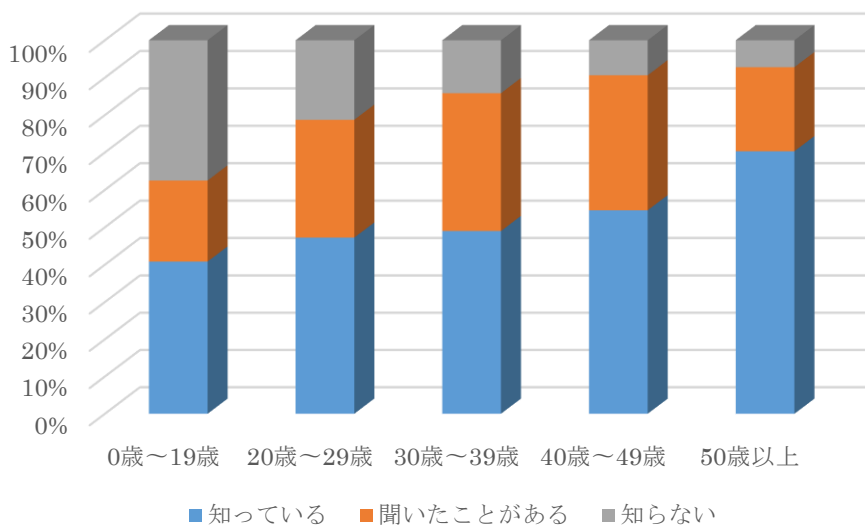
質問3 体罰が子どもに与えると考えられる影響を知っていますか。

【性別】



いずれの性別においても「知っている」の割合が最も高く、その他以外で2番目に高かったのは、「聞いたことがある」の割合であった。

【年齢別】

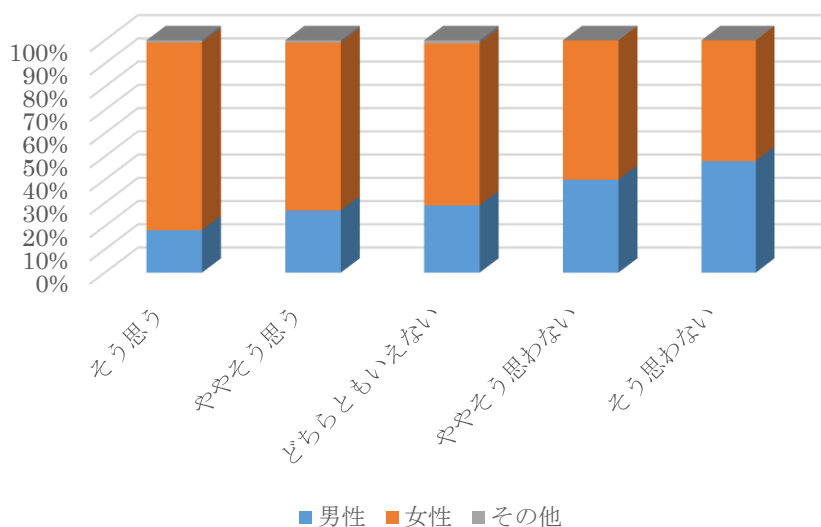


いずれの年齢においても、「知っている」の割合が最も高く、0歳～19歳を除く年齢で「聞いたことがある」の割合が2番目に高かった。

一方で、「知らない」の割合が最も高かったのは0歳～19歳で、次いで20歳～29歳が高かった。

質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。

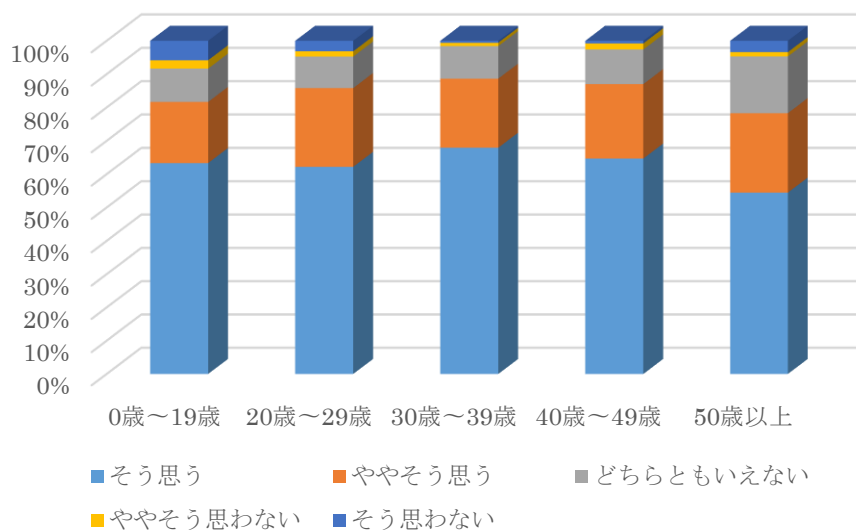
【性別】



最も高い割合は、男性では「そう思わない」、女性では「そう思う」であった。

その他では、「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」の割合はほぼ同じであった。（全体の回答数自体が少ない。）

【年齢別】



いずれの年齢においても、「そう思う」の割合が最も高く、次いで「ややそう思う」の割合が高かった。

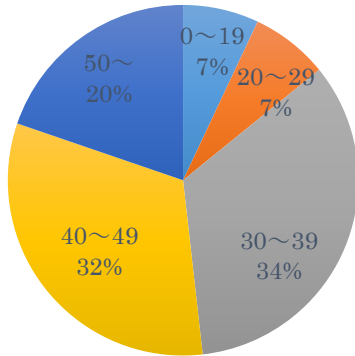
「そう思わない」の割合は、0歳～19歳で最も高く、次いで、50歳～が高かった。

質問5 (自由記載) 子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

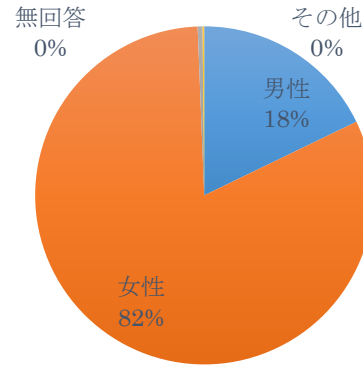
(1) 自由記載の回答数 ; 645 件

ア 上記回答者の内訳

【年齢】

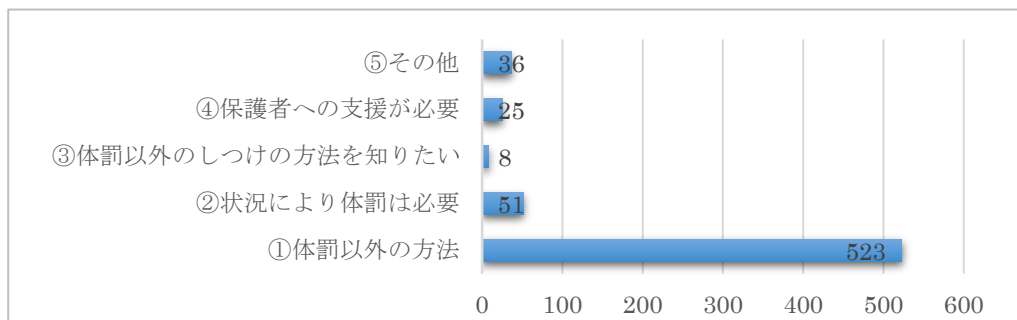


【性別】



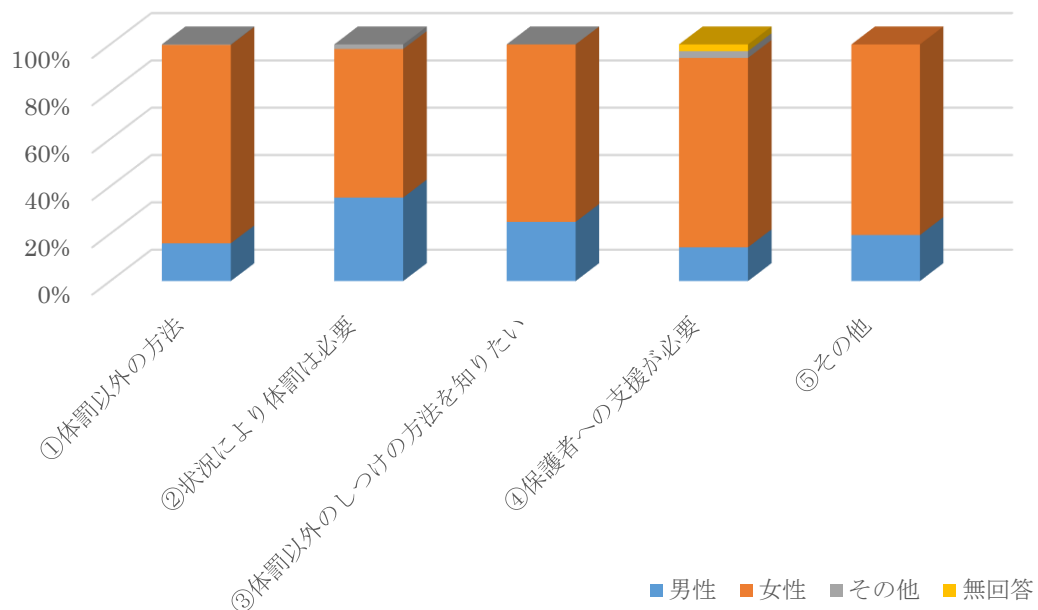
イ 上記回答の内容を以下5つのカテゴリーに分類

【内容】



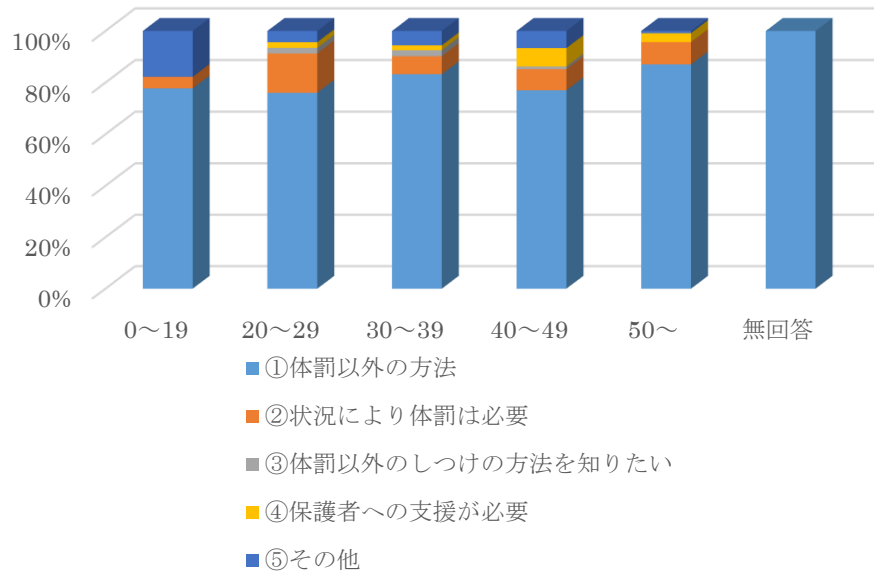
ウ 上記イの内容をカテゴリー別に集計

【内容】 × 【性別】



男性で最も多かったのは、「②状況により体罰は必要」で、女性で最も多かったのは、「①体罰以外の方法」、その他で最も多かったのは、「④保護者への支援が必要」であった。

【内容】 × 【年齢】



いずれの年齢においても、「①体罰以外の方法」の回答が最も多く、次いで、「②状況により体罰は必要」の回答であった。

エ 【内容】のその他の詳細（複数回答のみ、割合を算出）

- ・わからない (33.3%)
- ・悩んでいる、難しいと思える (22.2%)
- ・しつけという考え方自体がおかしいなど「しつけ」という言葉への違和感 (11.1%)
- ・しつけと体罰の違いを知りたい。(5.6%)
- ・法律の禁止で多少の体罰の抑止力にはなるが、完全になくすことは難しい。
- ・体罰で子育てされてきたため、翻弄される。
- ・法律の禁止で多少の体罰の抑止力にはなるが、完全になくすことは難しい。
- ・何も教えられないで巣立ってゆく子どもたちが大人になった社会には居たくない。
- ・言葉の暴力として子供を傷付けることに関して、対策が必要
- ・小学校の頃の先生の体罰は今も私の心に暗い影を落としたままです。
- ・躰という名のただのストレス発散を行っている人は少なくないと思う。
- ・教師へのサポートが必要

5 集計結果から読み取れたこと

- (1) 体罰が法律により禁止されたこと及び体罰が子どもに与える影響を「知らない」と回答する割合は若年層に高くなる傾向があり、早期からの教育及び普及啓発が必要

- (2) しつけにおける体罰の必要性に肯定しているのは、30～39歳までの年代で最も割合が高く、次いで20～29歳、40～49歳となっており、子育て世代の保護者の支援が重要
- (3) 体罰以外のしつけの方法を学びたいと回答する女性が多いのに対し、男性ではそう思わない回答と回答する割合が高いことから、男性も参加したいと思える子育てプログラム等の提供が必要
- (4) 自由記載回答においても、状況により体罰は必要と回答する割合が一定数あることから、さらなる普及啓発より体罰禁止の意識醸成を図る必要がある。
- (5) 自由記載回答の【内容】のうち、その他の中で「わからない」「悩んでいる、難しいと思える」の総計が55パーセントを超えており、子育てに関する悩みは潜在化していると思われる。子育ての悩みを気軽に相談しやすくなるような、地域のサポート体制の充実等さらなる整備が必要。